

平成29年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立農業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長 計2名
- (3) 内部委員の構成
副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任兼務）、主幹教諭（生活指導主任兼務）、主幹教諭（進路主任兼務）、主幹教諭（保健総務部主任・農場主任兼務）、家庭部主任 計7名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
近隣中学校長1名、近隣小学校長1名、近隣保育園長1名、公共職業安定所代表1名、警察署代表1名、同窓会代表1名、保護者代表1名 計7名

2 平成29年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 平成29年6月23日（金曜）内部委員7名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校状況報告並びに今年度の本校の現状と活動計画、意見交換
第2回 平成29年10月6日（金曜）内部委員7名、協議委員4名
近況報告（校長、教務、生活、進路、保健総務）、
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
第3回 平成30年2月9日（金曜）内部委員7名、協議委員5名
近況報告（校長、教務、生活、進路、保健総務）、
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 平成29年6月23日（金曜）内部委員7名、協議委員7名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
第2回 平成29年10月6日（金曜）内部委員7名、協議委員4名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
第3回 平成30年2月9日（金曜）内部委員7名、協議委員5名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・11月 全校生徒 対象：525人 回収：501人 回収率：95%
 - ・12月 保護者全員 対象：525人 回収：226人 回収率：43%
 - ・12月 地域・住民 対象：38人 回収：31人 回収率：81%
 - ・12月 教職員 対象：60人 回収：56人 回収率：93%
- (3) 主な評価項目
 - ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、安全、施設・設備などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・本校に入学してよかったと思う生徒は95%、入学させて良かったと思う保護者は99%と高い。
 - ・専科の学習は楽しいと答えた生徒が95%と高い一方、老朽化した施設の改修を望む声も多い。
 - ・家庭学習をしていると答えた生徒は51%に留まる。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・教科担当者が生徒理解を深め、主体的、協同的で深い学びの授業法を実践し、生徒が主体的に家庭学習をする態度を育てることが大切である。
 - ・他校にはない特色ある教育活動を実践し、生徒の学校生活に関する満足度も高い。加えて地域貢献も盛んである。さらに、進路先も充実している。この事実をもっと外にPRした方が良い。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒のアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。
 - ・家庭や地域との連携が重要であることが認識できた。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・教科担当者が生徒理解を深め、主体的、協同的で深い学びの授業法を実践し、生徒が主体的に家庭学習をする態度を育てることが大切である。
 - ・進路・生活指導・学年通信の発行、ホームページの定期更新など情報発信の質と量の向上が必要である。また、生徒への連絡においては緊急連絡の改善を望む。
 - ・施設の老朽化が著しく、新しい設備等が入らず、トイレ、窓が古い。改築、改修を今後も継続して行い、安全・安心な学習環境を整える。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・全ての教育活動を通じて、生徒の期待に応える教育の充実に努めること。
- ・学校ホームページの充実により情報発信を活性化し、地域・保護者とより一層連携を深め、共に生徒を育てること。

(2) 学習指導

- ・専門高校としての特性を生かし、自己実現を図るためのキャリア教育を充実させる。
- ・大学、民間等の連携を行い、より一層専門性の充実を図る。
- ・授業研究を実践し「力をつける授業」を展開するとともに家庭学習をする態度を育てる。

(3) 特別活動

- ・部活動において、日常の練習指導と部員数の確保について一層工夫していく。
- ・地域貢献等の情報発信と地域に根差した専門教育の充実を図り、地域とともに歩むことに加え、生徒に道徳心を醸成する。

(4) 生活指導

- ・挨拶を習慣づける。
- ・個別面談で生徒理解を深めるとともに、保護者との連絡を密にとり、問題行動・退学生徒を減らす。

(5) 進路指導

- ・キャリア教育を推進。早い段階から計画的な進路指導を行い、就職・進学ともに実績の向上を目指す。

(6) 健康・安全

- ・生徒の課題の早期発見とその解決・改善のため、校内研修等により、教育相談機能を充実させる。
- ・施設の改善を計画的に進めるとともに、校内の整理整頓を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6	1					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。
- ・アンケート分析のため、生徒、保護者、教員の質問項目の検討が必要である。